【1枚目】

事	事業 コード	7122000	3					部·課·係名等	] ]-	-ド1	02050200		政策体系	ミ上の(	位置付け	コード2	712002	予算科目	コード3	001040	105
事	事 務 事 業 名	アダプト・フ	プログラム	ム事業				部 名 等	ř		民生部 政策の柱基5豊かな自然と共生したまちづくり						<b>&lt;</b> 9	会計一般会計			
子	予算書の事業名	アダプト・フ	プログラム	ム事業				課名等	š		環境安全課	j	政 策	名 1	自然環境の保全	· 継承		款 4. 衛生費	ť		
事	事業期間 開始年度	平成14年	度終	冬了年度	当面継続	業務分類	5. ソフト事業	係名等	Š		生活安全係	,	施 策	名 2	. 生活環境の保全	と向上		項 1. 保健復	5生費		
実が	———————— 布計画(H25∼H27)への記載	無		実施計	·画(H26~H28)	における区分	実施計画書に記載しない	記入者氏名	4		坪崎 正裕	l	<u> </u>	分な	L			1 5. 環境領	5生費		
集		定管理者代行	O 2.	アウトソー	-シング () 3.	負担金・補助	か金 ● 4. 市直営	電話番号	ļ-		0765-23-1048	1	基 本 事 業	名環	境保全活動の推進	l .					
					.   0	,						L									
	事業概要(どのような事業		いくため	<b>鱼油</b> 古巾	の道路 海岸	八周 河川笙	の公共空間の清掃を、市民	ボランティア			<b>画への記載予定事業内容</b>				上段・計画:	下段・実績		\$	-画	1	
団体	▲が里親となって行う。								H2					単位	oo to the	outer etc	or treate	on tre str	on tre str	00.5	er obc
	以は団体と台息書を取り父 等を行う。	わし物品の文	桁、	11~おいて日	こくるコミの小	以来、団体に刈	する指導や助言、施設管理	有との連給調	H2					13/4	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年	- 度
	<この事務事業は、誰、何	可を対象にして	ていろのフ	か. ※人や	物 白然容源か	<i>ソ</i> >			П	3					44, 812	44, 315					
	市民	12/1900			197 H Wildeling	<u> </u>				(1	〕市民			人	44, 812	44, 315	44, 72	44, 490	44, 1	18	43, 86
44	町内会等の団体									対象					15	15				_	
象										指揮	② 登録団体数			団体	15	15	1!	5 15	i	5	1
										际	3)										,
										G	2)										
	<平成24年度における事	業見直しの有			の活動及び見直	し内容>				Œ	① ボランティア袋の配布数	<b>\$</b> ₹		枚	17, 500	17, 500	17, 50	17, 500	17, 50	00	17, 50
	見直し無	Æ	団体	本が集めた	ごみの収集					活	3 1 7 1 7 1 7 20 1 20 1 20 1 20 1 20 1 20				14, 160	19, 240					
手品										動性	2						-				
权	<平成25年度の主な活動内	内容>								標											
	団体が集めたごみの収集									(3	3)										
	くこの事務事業によって、	対象をどの。	ように変:	えろのか>					H		リムン海に立て北の街	雪 <i>i ー 1</i> 7			51. 7	55. 0					
	地域が自ら環境美化に取り				般市民の環境美	化に対する意	歳が向上し、ボランティア?	舌動への取り		(1	D 山から海に至る水の循环 保全されていると思う₹			%	51. 7	50. 4	55. (	55. 0	55.	0	55.
意	組みが拡大する。									成果	森林や里山に関する豊か		然環境が保		46. 5	50. 0				_	
図										指 個	全されていると思う市			%	46. 5	42. 3	50.	50. 0	50.	0	50.
										17R	⇒ 環境の保全のための取締	組みを	行っている	%	35. 9	42. 0	48. (	54. (	60.	0	66.
											『市民の割合				35. 9	50. 9	40.1	J 34. C	00.	ŭ .	00.
その	<施策の目指すすがた> 市民や事業者の環境保全の	の音響が宣士。	っていまっ	<del>/</del>						↑成果	<b>果指標が現段階で取得でき</b>	ていた	ない場合、そ	の取得	方法を記入						
結	市民で学来省の球気体主の	の心臓が 回る	2 (0.4)	7 0																	
米	- の東敦東楽明仏のも よ	14 l. > la + ~	の事数事	*************************************	or one										実績	<b>*</b>		4	· 画		
	<mark>この事務事業開始のきっか</mark> 成14年を試行期間とし、					<b>折しい事業が組</b>	まれた。				費目				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年	F.度
									ľ	(1	1)国・県支出金		(1	-円)	0	0	(	) (		0	
										(NE)	2) 地方債			-円)	0	0	(	1		0	
<b>▲</b> BI	B 44味地以後の東欧東米さ	<b>売り光ノ環</b> 座	の亦作し	人分叉力	ヨシム ア 傳統亦川	, ()+ 1/ <sub>2</sub> = +1	別経和 もんは熱の恋ルム	12\		M	3) その他(使用料・手数料:	等)		-円)	0	0	400	<u> </u>		0	40
	<sup>開始時期以後の事務事業を</sup> 台当初から海岸を清掃する					2.(佐以止、規	制緩和、社会情勢の変化な	۷)		訳 (4	4) 一般財源 予算(決算)額((1) ~(4)	の合		-円)	257 257	356 356	42:				42
その	D後、アダプトの登録は行	わないが、定	期的に清	掃活動を実	に施する地域が増 は に に に に に に に に に に に に に に に に に に	曽加している。			ľ	(1	1) 需用費			-円)	119	136	14			50	15
	市民や議会などからの要望	・意見(担当	者の私見	ではなく、	実際に寄せられ	1た意見・質問	などを記入)			<b>₹</b>	2)委託料			-円)	0	0	(			0	
特に	こなし										3)工事請負費			-円)	0	0	(	1		0	
<b>◆</b> [	県内他市の実施状況		◆押振1	している内	容又は把握して	いない理由の	記入欄			訳 —	4) 負担金補助及び交付金 5) その他			-円) -円)	138	220	27			•	27
<b>→</b> /1	● 把握している	→			プログラム登録		- 1773			_	A. 予算(決算)額((1)~	(5) の		-円)	257	356	42:				42
	○ 把握していない								(	<ol> <li>事務</li> </ol>	務事業に携わる正規職員数			人)	2	1		1		1	
<b>♦</b> ∄	市民と行政の協働状況				況の内容又は理		明の連提を ナロギニ・ニ	フロナジウン			務事業の年間所要時間 (************************************	-		特間)	80	60	60			50	6
	<ul><li>働働している</li><li>協働可能だが未実施</li></ul>	<b>→</b>	黒津市1	つの追路、	<b>神</b> 序、公園、河.	川寺の公共空	間の清掃を、市民ボランティ	/ 団体か美術			【件費(②×人件費単価/∃ 事業に係る総費用(A+B)	F円)		-円)	347 604	264 620	26 <sup>4</sup>				26 68
	<ul><li>○ 協働になじまない</li></ul>								_		● 美に徐る総貨用(A+B)			(四月) (四月)	4, 336	4, 399	4, 400				4, 40
			1										1		-, 0 0	2, 300	-, 10	-, 10.	-, -,		

## 【2枚目】

# 平成 25 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 24 年度実績 兼 平成 25 年度以降に係る計画)

【目的妥当性						
		結度(事務事業の意図が基本事業の意図にどのくらい直結 制数記でみがなくなり、また清掃ボランティア活動が不			づくはにつたがこ	z
<ul><li>直結度为</li><li>直結度中</li></ul>		説	、公技条の抑止にも	なり天しい田	Jくりに Jながら	ە ن
<ul><li>○ 直結度√</li></ul>		明				
		り市による実施が義務付けられている				
○ 法令など	だよ	る義務付けはないが、、公共性が非常に高く、民間(市民 実施が妥当	<ul><li>・企業等) による*</li></ul>	ナービスの実施	が不可能 (又は	困難)なた
		スペルタコ ビス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施	が巫当			
_		いるが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小(廃				
		成しているので、市の関与を廃止が妥当	, ,			
根拠法令等を言	己入		事務の区分		自治事務	
0 日始日本1	m ∧ 4	。 /四华の【4条】 ). 【辛國】 (22回2、 土火、 日末之田/	<b>へっつ押よし中央</b>	: #X m	1、油中 4 於 明 /	
3. 日的見但し	77:51	<mark>也(現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合</mark> 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。	っての理田を内容を	の説明、できな	い理田も説明)	
	54	SUPPLIED TO SUPPLI				
なし	説明					
【有効性の	評価	1				
4. 成果向上の	余地	- (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明、できない理F	由も説明)※成果打	旨標の計画と実	績との比較に基	づき記入
		成果向上の余地なし。				
なし	説				成果実績	中位
74.0	明				风木大順	十四
5. 連携するこ	とで、	今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 ( と 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事		い説明、できな	い理由も説明)	
		建携することで、 すより 刈木が向まる 可能性がある他の手	中伤争未はない。			
なし	説明					
【効率性の	評価	1				
		★地(手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明	明、できない理由す	説明)		
		ボランティア清掃で集まったごみの収集運搬費が主であり	リ、削減の余地はな	にい。		
45.1	説	(平成19年度で県の補助がなくなり、美化活動に必要な清必要最小限の事業費であり、削減の余地なし	<b>青掃用具の支給を</b> 原	趾した。)		
なし	明	2 34 1 140 7 14 2 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
7. 人件費の削	減の	余地(今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、で	きない理由も説明	)		
		必要最小限の業務時間				
なし	説明					
	明					
「八寸井の河	/II: 1					
【公平性の評		(の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)				
0. 文量機長の	@1E10	ボランティア清掃ということで無償で労力を提供してもら	らっている。また	自費で清掃用	具を揃える場合	もある。
	#H			- X < 113 (11)	7. C 1111 / C W D	
なし	説明					
9. 受益者負担(	の適正	E化の余地(県内他市と比較し、適正な水準か)				
		ボランティア活動であり、受益者負担はなじまない。				

平均

(1)	評価結果の総括			
(	① 目的妥当性	● 適切	<ul><li>目的廃止又は再記</li></ul>	設定の余地あり
(	② 有効性	● 適切	○ 成果向上の余地	あり
(	③ 効率性	● 適切	<ul><li>コスト削減の余量</li></ul>	地あり
(	④ 公平性	● 適切	○ 受益者負担の適正	正化の余地あり
(2)	今後の事務事業の方向性			
	<ul><li>● 現状のまま(又は記</li></ul>	十画どおり)継続	売実施	年度
	○ 終了 ○	廃止 〇	休止	
	○ 他の事務事業と統合	う又は連携		
	○ 目的見直し			
	<ul><li>事務事業のやり方改</li></ul>	善		

★改革·ē	<b>汝善案(いつ、どの</b>	ような改革・改善を、どういう手段で行うか)	コストと成果の方向性
		現状維持	コストの方向性
実施予定時期	平成26年度		維持
定時期		当面の間、現状を維持	成果の方向性
	中·長期的 (~5年間)		維持

<b>★</b> 一次評価 (課長総括評価)	
<ul><li>市内の道路、海岸、公園、河川等に不法投棄やボイ捨てする者が後を総たず、放置すれば環境悪化になりかねない状況が毎年繰り返されており、決め手がないのが現状である。しかしながら、各地域住民が自ら環境美化に取り組むことにより不法投棄等や一般市民の環境美化に対する意識向上につながることから、今後も地道な市民団体の清掃ボランティア活動等に取り組んでいくこと</li></ul>	二次評価の要否
が必要である。	不要
★二次評価 ( 経営戦略会議 · 部会 )	

事業コード

71220001

部・課・係名等 コード 1

02050100

政策体系上の位置付け

【1枚目】

001040107

予算科目

le le	事務事業名環	環境保全啓発	<b>Ě事業</b>					部名等	ž		民生部	頂	女策の	柱基	5 豊かな自然とま	も生したまちつ	< 0	会計一般会計			
-	予算書の事業名環	環境保全啓昇	卷事業					課名等	名 等 環境安全課 政 策 名 1 自然環境の保全・継承							<b>款</b> 4. 衛生費					
lali	事 業 期 間 開始年度	平成7年	終	了年度	当面継続	業務分類	5. ソフト事業	係 名 等	ř		環境政策係	茄	節 策	名 2	. 生活環境の保全と	上向上	項 1. 保健衛生費				
実	施計画(H25~H27)への記載	無		実施計画	画(H26~H28)	における区分	実施計画書に記載しない	記入者氏名	入者氏名 山崎 杏奈 区 分 なし							1 7・環境保	全費				
9	実施方法 () 1. 指定管	管理者代行	O 2	アウトソー	シング 〇 3	. 負担金・補助	金 ● 4. 市直営	電話番号	ļ.		0765-23-1004	35	- 本事業	名 環	境保全活動の推進						
-	X //2 // 12   0 11 11/C	8-21111	O 2.	, , , ,		· XIII 11199		PE HA B	<u> </u>		0,00 20 1001	Ľ			50 M = 70 30 47 1E ZE						
	事業概要 (どのような事業か)									施計ī	<b>画への記載予定事業内容</b>				上段・計画:	下段・実績		計	Đị .		
	らしの中から環境保全活動の として展開されることを目的						らしに密着した環境を守る流	舌動を市民運	H2	6				単							
									H2	7				位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
									H2	8											
	<この事務事業は、誰、何を	と対象にして	ているのだ	"。※人や物	物、自然資源な	:ど>					① 市民			人	44, 812	44, 315	44, 72	3 44, 490	44, 178	43, 865	
	市民									\$H	S 1124				44, 812	44, 315	,	11, 100	,	.0, 000	
対	t									久象 (	2)										
象	2									指標	~			ļ							
										(	3										
	<平成24年度における事業リ	見直しの有				し内容>				(	① 参加団体			団体	18	20	2.	1 25	26	27	
	見直し有		実行		る実行委員会に	魚津市内で活動	されている富山県地球温暖	化防止活動		活				ļ	18	23					
手品	A control to a section of the Control of Land	to .	推進	<b>賃員に加入し</b>	いただいた。				$\Rightarrow$	動指	② 参加者数			人	850	700	75	750	750	750	
1/2	《平成25年度の主な活動内容	\$>							4	標				ļ	850	700					
	9月に「環境フェスティバル	レ」を開催す	ける。							(	3										
	くとの事故事巻にトーマーキ	44. 12m	⊨ ८ <i>। च चोद</i> ३	7 0 4.5					+	-					1 45	1 57					
	<この事務事業によって、対 リサイクル市やフリーマーク				富会の開催。企	*業の環境保全に	係る様々な取組みを紹介す	ることによ	1 1	(	① 来場者数/市民			%	1. 45	1. 57		2 3	3	4	
	り、循環型社会の構築の大切									成				<b></b>	35. 9	42. 0					
怠図	で 図る。 1								$\Rightarrow$	果 指	② 環境の保全のための取約 民の割合	組を行	っている市	%	35. 9	50. 9	4	54	60	66	
										標 -				<b></b>	00. 0	00. 3					
										(	3										
Z	- <施策の目指すすがた>									↑成績	果指標が現段階で取得でき	ていな	よい場合、そ	の取得	方法を記入						
の	市民や事業者の環境保全の意	意識が高まっ	っています	r.							†画アンケートにて把握予										
結果																					
•	この事務事業開始のきっかけ	とこれまで	の事務事	業見直しの	経緯										実績			計画	II .		
	初は連合婦人会が主催し、リ			イベントが	開催され、主管	管課は教育委員会	会であったが、内容が環境に	に関するイベ	ント		費目				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
C.	あるということから当課が主	官謀となつ	7 <b>c</b> 。						Ī	(	1) 国・県支出金		(=	-円)	0	0		0	0	(	
										(石)	2) 地方債	ánán )		-円)	0	0	1	0	0	(	
4	明仏味物以外の東改東巻と氏	り歩く電応	の亦(し)。	人後又相	シレフ県底本/	L (注水工 担4	リ経和 社会は熱の変化なり	121		M	3) その他(使用料・手数料	等)		-円) -円)	180	289	33	,	330	330	
	開始時期以後の事務事業を取 年は、地球温暖化問題をテー					1. (	司抜相、任芸情勢の変化なる	=)		訳(	4) 一般財源 予算(決算)額((1) ~(4)	の合意		-円)	180	289	33		330	330	
平	成20年度より、連合婦人会・B っている。					員会形式で事業を	を実施しており、平成24年度	度からは公募	ŧ	(	1) 需用費	-> 🗆 Þ		-円)	147	142	17		170	170	
	市民や議会などからの要望・	意見(担当	者の私見	ではなく、	実際に寄せられ	1た意見・質問力	などを記入)			± (	2) 委託料		(=	-円)	0	147	15	150	150	150	
特	に無し									出(	3) 工事請負費			-円)	0	0		0	0	(	
										部 —	4) 負担金補助及び交付金			-円)	0	0		·	0		
<b>•</b> !	県内他市の実施状況				タスは把握して 関するイベント	いない理由の記	入欄				5) その他	(E) as /		-円) -円)	10 157	289	33	1.7	330	330	
	<ul><li>● 把握している</li><li>○ 把握していない</li></ul>	-	M LA O Y	R坎伯 兀 1〜月	ねっるコンノト	1/1/L			ŀ		A. 予算(決算)額((1)~( 務事業に携わる正規職員数			-円) 人)	3	289	33	330	330	330	
•	市民と行政の協働状況		◆選択Ⅰ	た協働状況	兄の内容又は理	由の記入欄					第事業に係わる正規職員数 第事業の年間所要時間			八) 宇間)	500	500	50		500	500	
f	●協働している	協働している市連合婦人会、市環境保健衛生協会、県地球温暖化防止活動推進員が実行委					員会として選	屋営		人件費(②×人件費単価/刊	F円)		-円)	2, 168	2, 200	2, 20		2, 200	2, 200		
	○ 協働可能だが未実施 主体となり、企画、運営を行っている。								事業に係る総費用 (A+B)		(=	-円)	2, 325	2, 489	2, 53	2, 530	2, 530	2, 530			
	○ 協働になじまない									(参	<b>号)人件費単価</b>		(円	@時間)	4, 336	4, 399	4, 40	4, 400	4, 400	4, 400	

#### 【2枚月】

### 平成 25 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 24 年度実績 兼 平成 25 年度以降に係る計画)

【目的妥当性の評価】  1. 基本業との超減度 (事務等業の意図が基本事業の意図にどのくらい直結しているか、その理由も記載)  ② 直載度中 ③ 直載度中 ③ 直載度中 ③ 直載度中 ③ 直載度中 ③ 直載度中 ④ 直載度中 ● (原間や他の機関でも実施可能な多格のでありませんであった。)  ② 法令などにより市による実施が義務付けられている ② 法令などにより市による実施が義務付けられている ② 法令などにより表務付けないが、公共性が非常に高く、民間(市民・企業等)によるサービスの実施が不可能(又は困難)なため、市による実施が表 ② 下にいる裁解付けないが、公共性が非常に高く、民間(市民・企業等)によるサービスの実施が不可能(又は困難)なため、市による実施が妥当 ● 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が非常に高く、民間(市民・企業等)によるサービスの実施が不可能(又は困難)なため、市による実施が妥当 ● 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が非常に高く、民間(市民・企業等)によるサービスの実施が不可能(又は困難)なため、市の間与を修むへ、そ後は市の間与を循い(廃止)が妥当 ● 既に自的を達成しているので、市の間与を廃止が妥当 ● 既に自的を達成しているので、市の間与を廃止が妥当 ● 既に自的を達成しているので、市の間与を修止が妥当 ● 既は自めを連放しているので、市の間与を修止が妥当 ● 既は自めを連放しているので、市の間与を修止が妥当 ● 既は自めを連放しているので、市の間与を修止が妥当 ● 既はから素値に関いまた。見重しの余地なし。  「最後などもに、市の関いを使いが妥当 ■ 「現状の「対域をできるい理由も説明」 ※成果指揮の計画と実績との比較に基づき記入 なし 関 関 本名とともに、市成の環境に対する意識の高揚が図られてきている。 成果実績 中位  「本書を関いるとして、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。  「本書を関いるとして、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。  「本書を関いるとして、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。  「本書を関いるとして、一定の環境に対することで、事業変を削減できない理由も説明)  「本書を関いるのとして、事業をと同談できないが表明、できない理由も説明)  「本書をと書でいる。 「本書を表しており、現まをないの意味の意味を定しており、現まをない。 ままは、現ましている。 「本書を表している。 「本書を表している。 「本書を表している。 「本書を表している。 「本書を表し、現ましている。 「本書を表している。 「本書を表している。 「本書を表し、現ましている。 「本書を表している。 「本書を表している。 「本書を表している。 「本書を表している。 「本書を表し、現ましている。 「本書を表し、現ましている。 「本書を表し、現ましている。 「本書を表し、現ましている。 「本書を表し、現ましている。 「本書を表し、現ましている。 「本書を表し、現ましている。 「本書を表し、現ましている。 「本書を表し、現ましている。 「本書を表し、まましている。 「本書を表し、まましている。 「本書を表している。 「本書を表している				223						
○ 直結度大 ● 直結度中 ● 直結度中 ○ 直結度中 ○ 直結度中 ○ 直結度中 ○ 直結度中 ○ 直接中 ○ 直接中 ○ 直接中 ○ 直接中 ○ 直接中 ○ 直接中 ○ 正常の最近を生まり、その手段としてイベントを開催することは有効な態策である。 ○ 法令などにより無行ければないが、公共性が非常に高く、民間(市民・企業等)によるサービスの実施が不可能(又は困難)なため、市による実施が設当 ● 民間でもサービス型供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が姿当 ○ 市が実施しているが、関与の必要性はなく、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当 ○ 政に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当 ● 民間でもサービス型供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 ○ 市が実施しているが、関与の必要性はなく、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当 ○ 政(国内を達成しているので、市の関与を廃止が妥当 ● 政(現状の) (対象] と [登図] は適切か、また、見直す場合その理由と内容を説明、できない理由も説明) 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。	【目的妥当性	の評	価】							
● 直結度中     ○ 直結度中     ○ 直結度中     ○ 直結度中     ○ 直結度中     ○ 直結度中     ○ 正命内をの姿置性 氏間や他の機関でも実施可能な事務事業か)     ○ 法令などにより市による実施が義務付けられている     ○ 法令などにより市による実施が義務付けられている     ○ 法令などによう場施が受当     ○ 民間でもサービスの実施が不可能(又は困難)なた     め、市による実施が表     ○ 正常のを達成しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当     ○ 既に目的を達成しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当     ○ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当     ○ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当     ○ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当     ○ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当     ○ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当     ○ 既に目的を違成しているので、市の関与を廃止が妥当     ○ 既に目的を違成しているので、市の関与を廃止が妥当     ○ 既は自動を達成したいるので、市の関与を廃止が妥当     ○ 既は、    ○ 取扱者を定題は、    ○ 取扱者を定題は、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定し、    ○ 取扱者を定め、     ○ 取扱者を定め、     ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定め、    ○ 取扱者を定	1. 基本事業と	の直								
● ほぼたで 明  2. 計の関与の爰当性 (民間)や他の機関でも実施可能な事務事業か)  ○ 法令などにより帯による実施が義務時付けられている。  ※ 法令などによう義析けはないが、、公共性が比較的高く、市による実施が妥当  ● 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当  ● 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当  ● 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当  ● 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当  ● 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当  ● 民間でもプロンので、市の関与を廃止が妥当  根拠法令等を配入  3. 目的見直しの余地 (現状の 【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合その理由と内容を説明、できない理由も説明)  現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。  近年、環境保全や毎球温暖化防止などに関るを持つ市民が増えてきており、本イベントにおいても家庭でできる環境保護活動を取り上げていることから、未帰者の増加が見込まれるとともに、市民の環境に対する意識の高揚が図られてきている。  が成果実績  中位  「会別学性の評価】  「教学学性の評価】  「教学学性の評価】  「教学学性の評価】  「教学学性の評価】  「教学学性の評価】  「教学学性の評価】  「教学性の評価】  「教学学性の評価】  「教学学校の表述の会社、「教育学校の表述を表述した。  「教育学校の表述を表述されたい。  「教育学校の表述を表述されたい。  「教育学校の表述を表述されたい。  「教育学校の表述を表述されたい。  「教育学校の表述を表述を表述されたい。  「教育学校の表述を表述を表述されたい。  「教育学校の表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表	○ 直結度大	Ţ.		譲成を図ることは大切な						
<ul> <li>2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)         <ul> <li>( 法令などにより 前による実施が義務付けられている</li></ul></li></ul>										
○ 法令などにより市による実施が義務付けられている  ○ 法令などによる業務で対けはないが、公共性が非常に高く、民間(市民・企業等)によるサービスの実施が不可能(又は困難)なため、市による実施が妥当  ● 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当  ○ 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当  ○ 既に目的を達成しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当  ○ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当  根拠法令等を配入  3. 目的見直しの余地(現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合その理由と内容を説明、できない理由も説明)  現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。  ② 長、環境をや地球温展化防止などに関いを持つ市民が増えてきており、ネイントにおいても実置でできる環境を受害があを取り上げていることから、未場者の増加が見込まれるとともに、市民の環境に対する意識の高揚が図られてきている。  ② 成果実績  □ 大・連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無(どう効果が高まるか説明、できない理由も説明)  ② 表現することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。  ② (数字性の評価)  ② 表現は各国体の協力を得て実施しており、現在のとこる耐減の余地なし。  ② 表現は各国体の協力を得て実施しており、現在のとこる耐減の余地なし。  ② 表現は各国体の協力を得て実施しており、現在のとこる耐減の余地なし。  ② 表現に関の人員で行っており、これ以上の耐減は見込めない。  ② と、文に根の介えば、見、ない理由も説明)  ② 表現低級の人員で行っており、これ以上の耐減は見込めない。  ② 人件費の削減の余地(今金の業務時間を工夫して少なくできないが説明、できない理由も説明)  ② 表現低級の人員で行っており、これ以上の削減は見込めない。  ② 人体費の削減の余地(今後の機会が偏っていて不公平でないか)										
<ul> <li>法令などによる義務付けはないが、、公共性が非常に高く、民間(市民・企業等)によるサービスの実施が不可能(又は困難)なため、市による実施が妥当         <ul> <li>● 民間でもサービスを機体は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当                 <ul> <li>市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当</li> <li>● 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当</li> <li>● 成に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当</li> <li>● 展記を等を記入</li> <li>事務の区分</li> <li>自治事務</li> </ul> </li> <li>3. 目的見蔵しているので、市の関与を廃止が妥当</li> <li>基本の事態を発出人</li> <li>基本の事態を提明、できない理由も説明)</li> <li>基本、環境保全や地球運搬化防止などに関わる持つ市民が増えてきており、ネイベントにおいても家庭でできる環境保全活動を取り上げていることから、未得者の増加が免込成果実績とおいたました。まれるとともに、市長の環境に対する意識の高揚が図られてきている。</li> <li>成果実績中位</li> <li>5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業はない。</li> <li>変度</li> <li>事業は各団体の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。</li> <li>変度、実施しており、現在のところ削減の余地なし。</li> <li>の事機に手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)</li> <li>企業費配限の人員で行っており、これ以上の削減は見込めない。</li> <li>変と機会の企業にんの余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)</li> <li>(公平性の評価)</li> <li>8. 受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)</li> <li>8. 受益機をの適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)</li> <li>3. 受益機をの適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)</li> <li>3. 受益機をの適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)</li> <li>3. 受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)</li> <li>3. 受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)</li> <li>3. 受益機会の確定化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)</li> <li>3. 受益機会の正との余地にあるが高いまないまないではないまないではないではないではないではないではないではないではないできない理由も説明)</li> <li>3. 受益機会の適能での余地をいるのできないできない理由も説明)</li> <li>3. できない理由も説明)</li> <li>3. できない理由も説明)</li> <li>4. できない理由も説明)</li></ul></li></ul>										
● 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 ○ 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当 ○ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当  提展法令等を記入 3. 目的見蔵しの余地(現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見蔵す場合その理由と内容を説明、できない理由も説明) 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。  なし 説 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。										
○ 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当 ○ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当  根拠法令等を記入 3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合その理由と内容を説明、できない理由も説明) 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。  なし 説 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。  【有効性の評価】 4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後との程度見込めるか説明、できない理由も説明)※成果指標の計画と実績との比較に基づき記入 近年、環境保全や地球温暖化防止などに関心を持つ市民が増えてきており、本イベントにおり、電子の環境保に対する意識均保全が影を取り上げていることから、実場者の増加が見込 成果実績 中位  5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無(どう効果が高まるか説明、できない理由も説明) 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。  ② 関  【効率性の評価】 6. 事業費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明) 事業は各団体の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。  ② と				可能(又は困難)なた						
世勝することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業はない。  【	● 民間でも	サー	ごス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当							
接触法令等を記入   事務の区分   自治事務   自治事務   3. 目的見直しの余地(現状の[対象]と意図は適切であり、見直しの余地なし。   現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。   現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。   現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。   日本の余地(成果の向上が今後どの程度見込めるか疑明、できない理由も説明)※成果指標の計画と実績との比較に基づき記入近年、環境保全や地球温暖化防止などに関心を持つ市民が増えており、本イベントに対しても家庭でできる環境保全活動を取り上げていることから、未場者の増加が見込まれるとともに、市民の環境に対する意識の高揚が図られてきている。   成果実績 中位   中位   東北のとともに、市民の環境に対する意識の高揚が図られてきている。   連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。   連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。   東東側の削減の余地(手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)   事業は各団体の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。   表記   日本の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。   本記   日本の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。   本記   日本の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。   本記   日本の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。   本記   日本の協力を得て実施しており、これ以上の削減は見込めない。   本記   日本の協力を得て実施しており、これ以上の削減は見込めない。   本記   日本の経過の余地(今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)   本記   日本の協力を得て実施しており、正れ以上の削減は見込めない。   本記   日本の協力   日本のとの関力   日本の協力   日本の関力   日本の協力   日本の法力   日本の協力   日本の協力   日本の法力   日本の協力   日本の格力   日本の法力   日本の格力   日本の格力   日本の本の体力   日本の本の格力   日本	○ 市が実施	Eして	いるが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当							
3. 目的見直しの余地 (現状の [対象] と [意図] は適切か、また、見直す場合その理由と内容を説明、できない理由も説明)  取状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。  は	○ 既に目的	を達	<b></b>							
	根拠法令等を記	己入	事務の区分	1治事務						
【有効性の評価】  4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明、できない理由も説明) ※成果指標の計画と実績との比較に基づき記入 近年、環境保全や地球温暖化防止などに関心を持つ市民が増えてきており、本イベント においても家庭でできる環境保全活動を取り上げていることから、来場者の増加が見込 成果実績 中位 があるとともに、市民の環境に対する意識の高揚が図られてきている。 成果実績 中位 中位 東携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無(どう効果が高まるか説明、できない理由も説明) 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。 なし 説明 事業は各団体の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。	3. 目的見直しの	の余均	(現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合その理由と内容を説明、できない理	由も説明)						
【有効性の評価】  4. 成果向上の余地(成果の向上が今後どの程度見込めるか説明、できない理由も説明)※成果指標の計画と実績との比較に基づき記入 近年、環境保全や地球温硬化防止などに関心を持つ市民が増えてきており、本イベントにおいても家庭でできる環境保全活動を取り上げていることから、来場者の増加が見込まれるとともに、市民の環境に対する意識の高揚が図られてきている。  成果実績中位  5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無(どう効果が高まるか説明、できない理由も説明) 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。  なし 説 明  6. 事業費の削減の余地(手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明) 事業は各団体の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。  なし 説 明  7. 人件費の削減の余地(今の業務時間を工夫して少なくできないが説明、できない理由も説明) 必要最低限の人員で行っており、これ以上の削減は見込めない。  【公平性の評価】  8. 受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)			現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。							
【有効性の評価】  4. 成果向上の余地(成果の向上が今後どの程度見込めるか説明、できない理由も説明)※成果指標の計画と実績との比較に基づき記入  近年、環境保全や地球温暖化防止などに関心を持つ市民が増えてきており、本イベント においても家庭でできる環境保全活動を取り上げていることから、来場者の増加が見込 成果実績 中位  5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無(どう効果が高まるか説明、できない理由も説明)  連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。  なし 関  【効率性の評価】  6. 事業費の削減の余地(手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)  事業は各団体の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。  なし 関  の	たし									
4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明、できない理由も説明) ※成果指標の計画と実績との比較に基づき記入 あり		明								
4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明、できない理由も説明) ※成果指標の計画と実績との比較に基づき記入	【有効性の記	評価								
あり 説 においても家庭でできる環境保全活動を取り上げていることから、来場者の増加が見込 成果実績 中位 まれるとともに、市民の環境に対する意識の高揚が図られてきている。 成果実績 中位 5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無(どう効果が高まるが説明、できない理由も説明) 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。 は	• 14771 T	,		の比較に基づき記入						
連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。  【	あり		においても家庭でできる環境保全活動を取り上げていることから、来場者の増加が見込	<sup>戊</sup> 果実績 中位						
【公平性の評価】  (対率性の評価】  (対率性の評価】  (本字費の削減の余地(手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)  事業は各団体の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。  なし 説 明  (大子性の評価)  (大子性の評価)  (大子性の評価)  (大子性の評価)	5. 連携するこ	とで、	今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無(どう効果が高まるか説明、できない理	由も説明)						
【公平性の評価】  ( 効率性の評価 】  ( 本と			連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。							
【	<i>†</i> :1									
6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)  事業は各団体の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。  なし 説明  7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)  必要最低限の人員で行っており、これ以上の削減は見込めない。  まなし 説明  【公平性の評価】  8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	4 C	明								
6. 事業費の削減の余地(手段を工夫することで、事業費を削減できないが説明、できない理由も説明)  事業は各団体の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。  なし  が 明  7. 人件費の削減の余地(今の業務時間を工夫して少なくできないが説明、できない理由も説明)  必要最低限の人員で行っており、これ以上の削減は見込めない。  なし  説明  【公平性の評価】  8. 受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)										
事業は各団体の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。 なし  7. 人件費の削減の余地(今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)  必要最低限の人員で行っており、これ以上の削減は見込めない。  なし  【公平性の評価】  8. 受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)	【効率性の記	評価								
なし 説明 7. 人件費の削減の余地(今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明) 必要最低限の人員で行っており、これ以上の削減は見込めない。 説明 【公平性の評価】 8. 受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)	6. 事業費の削減	咸の分								
7. 人件費の削減の余地(今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)  必要最低限の人員で行っており、これ以上の削減は見込めない。  説明  【公平性の評価】  8. 受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)			事業は各団体の協力を得て実施しており、現在のところ削減の余地なし。							
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明) 必要最低限の人員で行っており、これ以上の削減は見込めない。  なし 説明  【公平性の評価】 8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	なし									
必要最低限の人員で行っており、これ以上の削減は見込めない。 説 明 【公平性の評価】 8. 受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)		明								
必要最低限の人員で行っており、これ以上の削減は見込めない。 説明 【公平性の評価】 8.受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)	- 1 (4) -## -#*		A Life / A sea Mic Works III A constitution of the Land A Learn Color							
なし 説 明 【公平性の評価】 8.受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)	7. 人件費の削	減の								
(公平性の評価) 8. 受益機会の適正化の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)										
8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)										
8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)										
8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	【公平性の評	価】								
	• • • •		の余地(受益の機会が偏っていて不公平でないか)							
	The second of the second									

9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か) 循環型社会を推進するためのものであり、負担を求めることは不適当である。

なし

平均

(1) 3	結果の総括と今後 評価結果の総括	の万同性					
	① 目的妥当性	● 適	i切 〇 目的廃止	又は再設定の余地あり			
- ⊢	2) 有効性	〇 適					
(	3 効率性	<ul><li>■ 適</li></ul>	i切 〇 コスト削	減の余地あり			
(	<ul><li>④ 公平性</li></ul>	<ul><li>● 適</li></ul>	i切 〇 受益者負:	担の適正化の余地あり			
(2)	今後の事務事業の	方向性	<u> </u>				
	○ 現状のま	ま(又は計画どおり	) 継続実施		年度		
	〇 終了		0 11				
	0	事業と統合又は連携	§				
	○目的見直						
	● 事務事業	のやり方改善					
L.++- ¬L	attenta () 18 a	n b > 4 76# 76#4	を、どういう手段で行	* 1.1			コストと成果の方[
実施予定	平成26年度						維持
時			実施について、実行委 を検討し、より多くの	員会がより積極的に選 市民の参加を促す。	〖営していくように	支援する。	成果の方向性
期		4					

<b>★</b> 一次評価(課長総括評価)	
・くらしの中から環境保全活動の輪の広がりを期待すると共に、他団体との連携を強化し、くらしに密着した環境を守る活動を市 民運動として展開されることを目的としており、今後も創意工夫しながら「環境フェスティバル」を開催していく。	二次評価の要否
	不要
★二次評価 ( 経営戦略会議 · 部会 )	

事業コード

71220002

【1枚目】

001040107

事 務 事 業 名 野	環境保全活	動推進事業					部 名 等			民生部	政策の	柱 基	5 豊かな自然と共	も生したまちづ	< b	会計一般会計		
予算書の事業名	環境保全活	動推進事業					課名等			環境安全課	政 策	名 1	自然環境の保全・	・継承		款 4. 衛生費		
事 業 期 間 開始年度	平成23年	度 終了	年度	当面継続	業務分類	4. 負担金・補助金	係 名 等			環境政策係	施策	名 2	. 生活環境の保全と	上向上		項 1. 保健衛生	主費	
実施計画(H25~H27)への記載	有(一	般)	実施計画(J	H26~H28)	こおける区分	一般・継続・変更無	記入者氏名			山崎 杏奈	区	分な	:L			1 7・環境保	 全費	
	管理者代行	O 2. 7	ウトソーシン	/グ <b>●</b> 3.	負担金・補助	金 () 4. 市直営	電話番号			0765-23-1004	基本事業		境保全活動の推進					
3	L-21111	0			y (1—111 / 1111		-C ## 13 7						3071-212-33-17 72-2					
◆事業概要(どのような事業か		* <b>+</b> 800	+ Ab 4. ~ 600 61	まかか <b>大理 4</b> 6 /ロ	<b>ヘ</b> エ動の##:	+ 1001 7				「への記載予定事業内容			上段・計画:	下段・実績		計画	1	
環境保全に取り組む団体への補	助を通しく	、甲氏の日	上的かつ極初	<b>元的は環境体</b>	王石勁の推進	<b>で図る</b> 。			_	間団体等が行う環境保全活		単						
								H27		間団体等が行う環境保全活		位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
								H28	8 民	間団体等が行う環境保全活	動への支援等							
<この事務事業は、誰、何を 市民	を対象にし	ているのか。	※人や物、	自然資源など	ど>				Œ	)市民		人	44, 812	44, 315	44, 72	8 44, 490	44, 178	43, 865
市内で環境保全活動に取り	組む団体								対				44, 812	44, 315				
対象								$\Rightarrow$	象 ②	)申請件数		件	2	3		3	3	
*									標				3	3				
									(3	)								
and the state of the last of the state of th	D=1 -4	Amr. Cart. D	San describe - Ser		of colors													
<平成24年度における事業	見直しの有			i動及び見直し いら3件へ引き					Œ	補助件数		件	2	3		3	3	3
見直し有					= エリ。 3 件、補助額15	50,000円。			活				Z	3				
段 / 平成95年度の主な活動内2	なく							<b>=</b>	動 ②	)								
マ マ成25年度の主な活動内容	↔ /								標				<u> </u>					
補助団体を3団体として、テ	市内で環境	保全活動に取	1り組む団体	への補助を乳	実施する。				3	)								
<この事務事業によって、対	対象をどの	ように変える	のか>										100	100				
市民の自主的かつ継続的な理									(1	)申請に対する補助の割合	<b></b>	%	66	100	10	100	100	100
音									成	環境の保全のための取締	旧た行っているま		35. 9	42. 0		-		
図								$\rightarrow$	指 ②	民の割合	اله.، ۲۵ و دا ع ته	%	35. 9	50. 9	4	8 54	60	66
									標									
									3	)								
そ <施策の目指すすがた>									↑成果	指標が現段階で取得でき	ていない場合、そ	その取得	昇方法を記入					
の市民や事業者の環境保全の意	意識が高ま	っています。							アンケ	一トにより把握する。								
果																		
◆この事務事業開始のきっかけ										費目			実績			計画	1	
平成23年より、魚津市環境保全 2団体から3団体へ増加した。	基金を活用	して、市内の	カ環境保全活	舌動の推進と	定着を図るたる	めに実施し、平成24年度に	は、補助団体数	故を					23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
									_	)国・県支出金 )地方債		(千円) (千円)	0	0		0 0	0	(
									3876	) <sup>地方</sup> 頃 ) その他 (使用料・手数料		(千円)	7, 100	733	· ·		1, 152	1, 152
◆開始時期以後の事務事業を取	り巻く環境	の変化と、	今後予想され	れる環境変化	(法改正、規制	制緩和、社会情勢の変化な	ど)	_	M	)一般財源		(千円)	0	0	1, 10	0 0	0	., 102
特に無し。										予算(決算)額((1)~(4)	の合計)	(千円)	7, 100	733	1, 15	2 1, 152	1, 152	1, 152
									(1	) 需用費	(	(千円)	0	0		0	0	(
◆市民や議会などからの要望・	意見 (担当	者の私見では	はなく、実際	祭に寄せられ	た意見・質問	などを記入)			- 支	)委託料		(千円)	0	0	1		0	
特に無し。									-	)工事請負費 )負担金補助及び交付金		(千円)	100	150	15		0 150	
◆県内他市の実施状況		◆把握して	"いる内容▽	は把握してい	いない理由の記	- 入欄			訳	) その他		(千円) (千円)	6, 391	583	1, 00		1, 002	
● 把握している	→					はさまざまである。				A. 予算(決算)額((1)~(		(千円)	6, 491	733	1, 15		1, 152	1, 152
○ 把握していない						C		事業に携わる正規職員数		(人)	1	2		2 2	2			
◆市民と行政の協働状況				内容又は理由				0	· · · · ·	事業の年間所要時間		(時間)	320	320			320	320
<ul><li>協働している</li><li>市からの支援により、市民が主体となり環境保全活動に取り組んでいる。</li></ul>						-		件費(②×人件費単価/千		(千円)	1, 388	1, 408	1, 40	.,	1, 408	1, 408		
<ul><li>○ 協働可能だが未実施</li><li>○ 協働になりませい。</li></ul>										業に係る総費用 (A+B)		(千円)	7, 879	2, 141	2, 56		2, 560	2, 560
<ul><li>○ 協働になじまない</li></ul>		1							(麥考	) 人件費単価	()	円@時間)	4, 336	4, 399	4, 40	4, 400	4, 400	4, 400

部・課・係名等 コード 1

02050100

政策体系上の位置付け

712002

コード2

予算科目

<b>[</b> □	的妥当性	の意	区(冊】								
1.			im』    結度(事務事業の意図が基本事業の意図にどのくらい直統	吉しているか、そのF	理由も記載)						
	○ 直結度大	:	補助を行うことで、市民の環境保全の活動を支援する	ることができる。							
	● 直結度中		明								
	○直結度小		(国用ななの数用できたサブやと支が支援))								
			E(民間や他の機関でも実施可能な事務事業か) り市による実施が義務付けられている								
	★会など	によ	る義務付けはないが、、公共性が非常に高く、民間(市民 実施が妥当	・企業等) によるサ	ーービスの実施	が不可能(又は	困難)なた				
	<ul><li>○ 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当</li></ul>										
	<ul><li>○ 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当</li></ul>										
	○ 既に目的	を達	成しているので、市の関与を廃止が妥当								
根	拠法令等を記	已入		事務の区分		自治事務					
3.	目的見直しの	の余地	2(現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場	合その理由と内容を	·説明、できな	い理由も説明)					
	なし	説明	現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。								
[1	有効性の記	評価	]								
4.	成果向上の名	全地	成果の向上が今後どの程度見込めるか説明、できない理			績との比較に基	づき記入				
	あり	説明	直接補助以外の団体への支援の方法を検討することで、) ある。	<b>或果の向上が見込め</b>	る可能性が	成果実績	中位				
5.	連携すること	とで、	今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無(	どう効果が高まるか	説明、できな	い理由も説明)					
	なし	説明	連携することで、今より効果が高まる可能性があるほか(	の事務事業はない。							
[3	効率性の語	平価	]								
6.	事業費の削減	載の分	土地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説	明、できない理由も	説明)						
	なし	説明	削減の余地はない。								
7.	人件費の削	減の	余地(今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、で	できない理由も説明)							
	なし	説明	削減の余地はない。								
公	平性の評	価】									
8.	受益機会の道	窗正化	この余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)								
	なし	説明	補助事業として適正な水準であると考えられる。								

. 受益者負担の適正化の余地(県内他市と比較し、適正な水準か)

対象外

_					
*	評价	m結果の総括と今後の方向性			
	(1)	評価結果の総括			
		① 目的妥当性	● 適切	○ 目的廃止又は再設定の余地あり	
		② 有効性	<ul><li>適切</li></ul>	● 成果向上の余地あり	
		③ 効率性	● 適切	○ コスト削減の余地あり	
		<ul><li>④ 公平性</li></ul>	● 適切	○ 受益者負担の適正化の余地あり	
	(2)	今後の事務事業の方向性			
		<ul><li>現状のまま(又は)</li></ul>	十画どおり)継続	売実施  年度	
		〇 終了 〇	廃止 〇	休止	
		○ 他の事務事業と統合	う又は連携		
		○ 目的見直し			
		● 事務事業のやり方改	善		
<b>★</b> ₫	女革・	改善案 (いつ、どのような改)	革・改善を、ど	ういう手段で行うか)	コストと成果の方向性
		環境保全	活動に対する補	助の周知に努める。	

★改革·动		ような改革・改善を、どういう手段で行うか)	コストと成果の方向性
		環境保全活動に対する補助の周知に努める。	コストの方向性
実施予	平成26年度		維持
定時期		直接補助以外の団体への支援の方法を検討する。	成果の方向性
	中·長期的 (~5年間)		向上

★一次評価(課長総括評価)	
- 環境保全活動団体の存在は確認しているものの申請件数が少ない状況が続いているため、今後PR方法について検討が必要である。	二次評価の要る
	不要
★二次評価 ( 経営戦略会議 · 部会 )	